

高速液体クロマトグラフ市場に関する調査結果 2010

－「超高速」「抗体医薬」「アジア」に期待集まる－

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて高速液体クロマトグラフ（HPLC）市場の調査を実施した。

1. 調査期間：2010年3月～5月
2. 調査対象：国内の高速液体クロマトグラフ関連製品メーカー
3. 調査方法：当社専門研究員による直接面談、電話・e-mailによるヒアリング、ならびに文献調査併用

<高速液体クロマトグラフ（HPLC）市場とは>

本調査における高速液体クロマトグラフ（HPLC）市場は、「システム・機器」と「充填剤・カラム」の市場から構成される。HPLCとは、分析および精製をする手法の一つで、物質の化学的相互作用や分子サイズの違いなどによって、混合試料の分離、定量を行う。試料注入部・ポンプ・検出器等からなる「システム・機器」部分と、試料が通過する筒状容器で、分離が行われる「カラム」部分に分けられる。カラムは、中に詰める「充填剤」の種類やカラムの径、長さなどによって様々な種類があり、多様な分析需要に対応している。

【調査結果サマリー】

◆ 2009年度の高速液体クロマトグラフ市場は530.9億円

2009年度の高速液体クロマトグラフ（HPLC）市場は、金額ベースで530億9,000万円であった。世界的な経済不況の影響もあり、市場を取り巻く環境は厳しいが、回復の兆しも見せ始めている。

◆ 「超高速 HPLC」、「抗体医薬」に期待が集まる

「超高速 HPLC」と「抗体医薬」の分野に期待が集まっている。「超高速 HPLC」は、分析能力の向上や分析時間の短縮など、よりハイレベルな分析を可能にする次世代システムで、製薬企業をはじめとしたユーザーからも評価されているため、参入企業はシステムの普及、カラムの充実等に注力している。「抗体医薬」の分野は、副作用の少ない治療薬として今後も研究開発が活発になると見られ、関連するシステムやカラム等が今後も伸びていくと考える。

◆ 海外に販路を求める動きが一層加速、急速に伸びる「アジア」市場

製品販売を伸ばすため、各企業とも海外に販路を求める動きを強めている。特に中国、インドを中心としたアジア地域での製品需要は伸び続けると見られ、参入企業は同エリアでの販売体制強化に向けた動きを加速させていくと予測する。

◆ 資料体裁

資料名：「2010年版 分析機器に関する市場動向調査〈高速液体クロマトグラフ編〉」
 発刊日：2010年5月28日
 体裁：A4判 210頁
 定価：315,000円（本体価格300,000円 消費税等15,000円）

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝

設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先（当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>）

（株）矢野経済研究所 営業本部 広報宣伝グループ TEL：03-5371-6912 E-mail: press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報宣伝グループ迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

1. 市場概況

日本において現在、高速液体クロマトグラフ(HPLC)は、様々な有機化合物の分離や定量のための代表的な手法として、幅広く利用されている。技術的にもイノベーションが進んでいる市場となっており、特に製薬業界におけるGLP/GMP(Good Laboratory Practice/Good Manufacturing Practice)対応、プロテオーム解析、バイオマーカー探索、水質検査などの環境分析といった分野で利用が広がっている。こうした分析対象の多様化、あるいは効率化へのニーズに対応するため、システム・機器の技術革新や充填剤・パッキドカラムの製品開発などが行われている。

現在のHPLC市場は、必要とするユーザーへの普及度は高く、技術的にも一定の革新が進んでおり、大幅な市場の伸長が難しくなっている。日本国内における2009年度のHPLC市場は、530.9億円にのぼるものと推計する。(内訳は、システム・機器:67.5%、充填剤・カラム:32.5%)。同市場の2006年度から2009年度における年平均成長率(CAGR)は1.4%で推移している。世界的な経済不況による生産調整や設備投資の抑制などが影響し、市場を取り巻く環境は厳しい状況が続いている。だが、最近では、化学分野での分析需要が回復の兆しを見せ始めるなど明るい材料もあり、市場の行方が注目されている。

2. 注目すべき動向

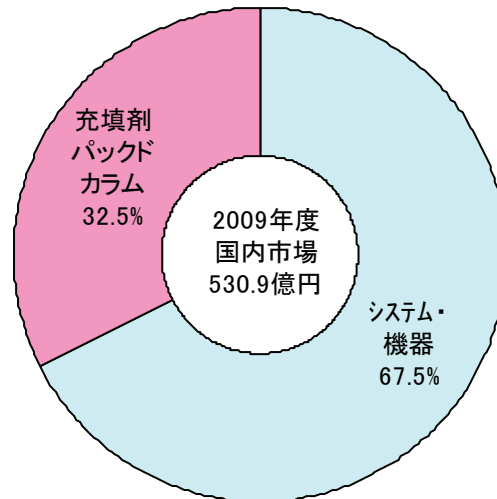
分析能力の向上や分析時間の短縮など、よりハイレベルな分析を可能とする「超高速HPLC」が市場に定着しつつあり、同システムの販売・普及あるいは対応するカラムの充実等に、参入企業は注力している。製薬企業をはじめとしたユーザーからも、分析時間の短縮により製品開発の効率化が実現できる点などが評価されており、今後の製品の広がりが期待される。

また、抗体医薬関連の分析・分取の需要も高まりつつある。副作用の少ない治療薬として今後も研究開発が活発になると見られ、タンパク質精製を目的としたバイオシステムや対応するカラム等が、今後もさらに伸びていくものと考えられる。

3. 将来予測

日本国内でこのような動きがある一方、製品販売を伸ばすため、各企業とも海外に販路を求める動きを強めている。特に伸びが大きいのは中国、インドを中心としたアジア地域で、中国では環境分析、インドでは創薬関連の分析などの需要が急速に拡大している。今後もアジア地域での製品需要は伸び続けると見られ、参入企業は、海外での販売体制構築、拡大に向けた動きを加速させていくと予測する。

図1. 高速液体クロマトグラフ (HPLC)市場 構成比率(2009年度)



矢野経済研究所推計

注1: メーカー出荷金額ベース

表1. 高速液体クロマトグラフ (HPLC)市場規模推移

単位:億円、%

区分	システム・機器+充填剤・カラム		年平均成長率 (CAGR)
	2006年度	2009年度	
国内市場規模	509.9	530.9	1.4

矢野経済研究所推計

注2: メーカー出荷金額ベース